少年少女のための

現代日本文学全集

9

火 集
責任編集
久 松 潛 一
伊 藤 清
田 整
少
の
本

DC 918.6

少年少女のための
現代日本文学全集 9

与謝野晶子・北原白秋集

定価　二五〇円

昭和三十年十一月二十日　初版発所

昭和三十二年二月二十五日再版発行

発行者　小嶺嘉太郎

発行所　東西文明社

千代田区神田神保町二ノ二一

東京印刷株式会社
帝都製本所

この本を読む人に

すぐれた文学者は、この世や人間の真実や、美をするどくみつめて、その作品にはっきりとえがいてくれております。私たちは、それを読むことによって、私たちの心をゆたかに、美しくすることができます。

この本には、そうしたすぐれた作家たちの代表的な作品のなかから、さらに少年少女のみなさんが、読むのにふさわしいもの、ぜひ読んでもらいたいものを、えらんでのせてあります。そして学校で教わらないむずかしい漢字は、かなに改めたり、その意味をしるしたり、またかなづかいも、現代かなづかいになおして、みなさんにしたしみやすいようにしてあります。

その作品も作家のいろいろな面を示すようにしてありますが、あまりに長すぎて、この本にのせきれない作品や、もっとおとなになってから読んだほうがいい部分をふくむものは、その一部をとってのせてあるものもあります。その部分のとりかたもくふうして、その作品のあらましを知られるようにつとめました。

しかし、もちろん原作をこのように改めたといっても、原作の意図およびそ

の味わいなどは、できるかぎり、そこなうことなく伝えることができるよう苦心しました。だから実際は、このままを原作と考えても、さしつかえがないと思っております。

最後に、解説として、その作家の一生や、その作品の説明がつけられております。一つの作品をよく味わうには、それがどのような作家によって書かれたか、その作家の一生、ひととなりを知ることは、きわめてたいせつであります。それで初めに、解説のほうを読んでから作品のほうを読むことも、作品をよく理解することができる方法でしょう。

この解説も、それを書いた人々が、たいへん興味ふかく、親切にしるしてくれておりますのできっと、作品を読むように、みなさんの心をひきつけてくれるでありましょう。

編集者　久松潜一
　　伊藤整
　　福田清人

● 本文中、唐（むかしの中国の名）のように、かっこの中に小活字で入れてあるのは、編集部でつけた注です。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

與謝野晶子集もくじ

與謝野晶子歌集……七

みだれ髪・小扇・毒草・恋衣・舞姫・夢の華・常夏・佐保姫・春泥集・青海波・夏より秋へ・朱葉集・晶子新集・火の鳥・太陽と薔薇・草の夢

與謝野晶子詩集……二

與謝野晶子散文集……四一

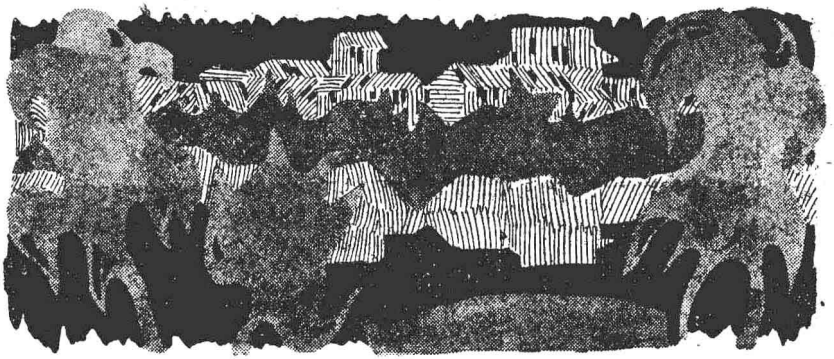
正月雑話・雑木の花(上)・雑木の花(下)・夢・氷・月二夜(上)・月二夜(下)・武蔵野・雪近く・霜

解説　木俣　修……六一

北原白秋集もくじ

北原白秋童謡集……七九
北原白秋詩集……一〇八
北原白秋歌集……一三一
桐の花・雲母集・雀の卵・風隠集・海阪・白南風・夢殿・
溪流唱・椽・黒檜・牡丹の木
生いたちの記……一四五
葛飾文章……一六九
雀の神経感覚及性格……二〇八
解説　木俣　修……三三五

そうてい　青山龍水
カット　山本耀也



與謝野晶子集

與謝野晶子歌集

みだれ髪（抄）

その子二十櫛にながるる黒髪のおごりの春のうつくしきかな

清水へ祇園をよぎる桜月夜こよい会う人みなうつくしき

経はにがし春のゆうべを奥の院の二十五菩薩歌うけたまえ

春の夜の闇の中くるあまき風しばしかの子が髪にふかざれ

ほととぎす嵯峨へは一里京へ三里水の清滝夜の明けやすき

なにとなく君にまたるるここちしていでし花野の夕月夜かな

おばしまにおもいはてなき身をもたせ小萩をわたる秋の風見る

うすものの二尺のたもとすべりおちて螢ながるる夜風の青き

四十八寺そのひと寺の鐘なりぬいまし江の北雨雲ひくき

五月雨に築土くずれし鳥羽殿のいぬいの池におもだかさきぬ

つばくらの羽にしたたる春雨をうけてなでんかわが朝寝髪

夕ぐれを花にかくるる小ぎつねのにこ毛にひびく北嵯峨の鐘

下京や紅屋が門をくぐりたる男かわゆし春の夜の月

四条橋おしろいあつき舞姫のぬかささやかに打つ夕あられ

舞姫のかりねすがたようつくしき朝京くだる春の川舟

小扇（抄）

春ゆうべそぼふる雨の大原や花に狐の睡る寂光院

連翹のとなりへそれてうぐいすは鳴かず小竹にふる春の雨

春むかし緋ざくら立てる花かげに少女の我となりにける里

川ひとすじ菜たね十里の宵月夜母がうまれし国美しむ

京の北は弥生にちかき荒びよりあられのなかに紅梅のちる

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

船の子は浪華へ十里秋の水木津の河橋ゆうべをおくるよ

夕橋に人はひとりの秋のいろ木津川ながら大和を行くき

大門のとびらにすがる春の日や姉にしら藤たそがれ長ぬ

毒草（抄）

友染のそで十あまり円うより千鳥きく夜を雪ふりいでいぬ

松が中の花にぬかよせ耳をふる白の御馬をよしとおもな

うつくしき花屋が妻の朝髪とわがそでとふく春の風か

恋衣（抄）

春曙抄に伊勢をかさねてかさ足らぬまくらはやがてくずれけるかな

ほととぎす聞きたまいしか聞かざりき水の音するよき寝ざめかな

海恋し潮の遠鳴りかぞえては少女となりし父母の家

鎌倉や御仏なれど釈迦牟尼は美男におわす夏木立かな

ほととぎす治承寿永のおん国母三十にして経よます寺

髪にさせばかくやくと射る夏の日や王者の花のこがねひぐるま

皇ずみの春さめふれば傘さして君とわが植う海棠の苗

ややひろくひさしだしたる母屋づくり木の香にまじるたちばなの花

祭の日莢橘ゆく花がさのなかにも似たる人を見ざりし

夕粧いてのれんくぐれば大阪の風簪ふく街にも生いぬ

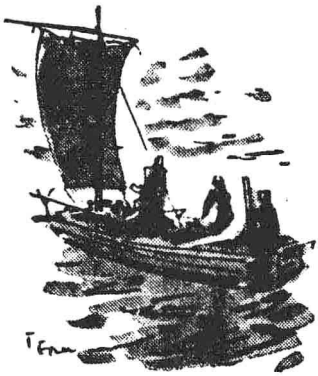
ここすぎて夕だちはしる川むかい柳千株に夏の雲のぼる

夏の日の天日ひとつわが上にややまばゆかるものと思いぬ

あやにくに虫歯病む子とこもりいぬ皷きこゆる昼の山の湯

金色のちいさき鳥のかたちしていちょうちるなり夕日の丘に

駿河の山百合がうつむく朝がたち霧にてる日を野に髪すきぬ



舞姫（抄）

家七室霧にみなかす初秋を山の素湯めできしやまろうど

わかき日のやんごとなさは王城のごとしと知りぬ流離の国に

春雨やわがおち髪を巣にあみてそだちしひなの鶯の鳴く

遠つおうみ大河ながるる国なかば菜の花さきぬ富士をあなたに

高き家に君とのぼれば春の国川遠白し朝の鐘なる

わが宿の春はあけぼのむらさきの糸のようなるおちかたの川

ふるさとの潮の遠音のわが胸にひびくをおぼゆ初夏の雲

ほととぎす山の法師が大音の初夜の陀羅尼のこだまする寺

おとうとはおかしおどけしあかき頬に涙ながして笛ならうさま

北海の鱒積みきたる白き帆を鐘楼に上り見てある少女

鳴滝や庭なめらかに椿ちるおばの御寺のうぐいすのこえ

君が家につづく川原のなでしこにうす月さして夕べとなりぬ

夏のかぜ山よりきたり三百の牧の若馬耳ふかれけり

夏まつりよき帯むすび舞姫に似しやを思う日のうれしさよ

日は暮れぬ海の上にはむらさきの菖蒲に似たる夕雲のして

たなばたやすだれの外なる香炉のけぶりのうえの天の川かな

公孫樹黄にして立つにふためきて野の霧くだる秋の夕ぐれ

春の雨高野の山におん児の得度の日かや鐘おおく鳴るるかな

春の潮遠音ひびきて奈古の海の富士赤らかに夜あけぬ

秋霧や林のおくのひとつ家に啄木鳥飼うと人おしえけり

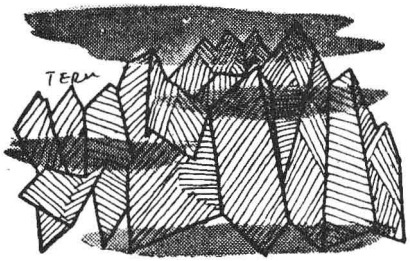
籠はなてば螢とまりぬ香木のはしらにひとつ御髪にひとつ

春のかぜ加茂川こえてうたたねのすだれのなかに山吹き入れよ

富士の山浜名の海の葦原の夜あけの水はむらさきにして

遠浅に鰈つる子のむしろ帆を春かぜふきぬ上総より来て

上つ毛や赤城はふるき牧にして牛馬はなつ春かぜの山



夢の華（抄）

山おちこち遊行の僧の御袈裟とも見えてはだらに雪とけにけり

春の磯こいしき人の網もれし小鯛かくれて潮けぶりしぬ

たちばなの香の木かげを行かねども皐月は恋し遠居る人よ

遠き目に比叡とも見たるいただきや大文字あるおぼろ夜の心

ほととぎす赤城の山のすそにして野高き草の夕月夜かな

君乗せし黄の大馬とわが驢馬とならべて春の水見る夕べ

八月の湯ぶねに聞きしうぐいすの心をおもいぬ朝霧のまち

ほととぎす東明どきの乱声に湖水は白き波立つらしも

戸をくれば厨の水にありあけのうす月さしぬ山ざくら花

常夏（抄）

ふと思う十とせのむかし海見れば足のよろめく少女なりし日

朝の雲いざよう下にしきしまの天子の花の山ざくらさく

朧月の来ると野寺のうしろやぶ穂すすきばかり雪かずくかな

風ふけば馬に乗れるも乗らざるもまばらに走る秋の日の原

しらしらとなみだのつたうほおをうつし鏡はありぬ春の夕べに

高き屋にのぼる月夜のはださむみ髪の上より羅をさらに着ぬ

朝がおの紅むらさきを一いろに染めぬわりなき秋の雨かな

白き菊ややおとろえぬ夕べには明眸うるむ人のごとくに

火の中のきわめて熱き火の一つまくらにするがごとくほおもえぬ

佐保姫（抄）

白蘭の園に麒麟を放つ日もものはかなきなげきをぞする

元朝や馬に乗りたるこちしてわれは都の日本橋ゆくうまごやしこれらの低き草もふく秋風なれば身にしみにけり

おどけたる一寸法師舞いいでよ秋の夕べのてのひらの上

ふむところ沙坂にして松はみな黒きかげおく有明月夜

朝顔の枯れ葉を引けば山茶花のつぼみぞ見ゆる秋のくれがた

いもうとと七夕の笹二つ三つながるる川の橋を行くかな

わが髪のすそにさやさや風かよう八畳の間の秋の夕ぐれ

春泥集（抄）

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com